

171-0014東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

AA

日本ニューズレター No.116

第11回全国評議会「一体性」開催！

2006年2月10日～12日に、全国から公募された「一体性」をテーマに掲げ、「第11回全国評議会」が開催されました。昨年と同様川崎グランドホテルにおいて、グループの皆さまのご協力によって、本年も無事全国評議会が開催されたことを心よりお礼申し上げます。東京近辺は全国評議会開催の前の週末で、週末になると雪模様のあいにくのお天気が続いていましたが、当日は好天に恵まれ全国各地からメンバーが集まりました。今年1月1日から着任された前期評議員は、ちょっぴり緊張された面持ちだったでしょうか？でも、大きな希望を持っての出席であることがその表情から伺えました。後期評議員は、昨年1年間様々な形でAAの良心に基づく活動をして集ってきたといったどっしりとしたものを漂わせていたように感じます。常任理事会も今年から新しい理事を3名迎え、WSM評議員も常任理事会から新たな前期評議員が指名され、共に活動を始めています。ただ、今回の前期評議員を選出されるに当たり各地域とも大変苦慮された様子で、最終的に当日出席が叶ったのは、前期後期評議員17名と常任理事会構成メンバー14人の合計31名が今評議会の構成メンバーとなりました。それでは採択された中のほんの一部ですが、お伝えします。

国際協力関係で決まった大きな事！

今回の全国評議会では採択された内容で最初にお知らせしたいのは、2007年のアジア・オセアニア・サービスミーティング(AOSM)の日本開催が決定されたことです。AOSMはアジア・オセアニア圏の各国の代表が集まり、それぞれの国の問題や、経験と希望を分かち合う場です。それでは次に各委員会の採択結果をざっと見てまいりましょう。

議事委員会では何が決まったのでしょうか？

評議会憲章及び常任理事会準則は熱い議論が交わされ、様々な疑義が検討されました。もう1つ、直接グループに関連する案件として、「代議員届出制度の見直し」が採択されました。今後JSOから年末にお願いしている代議員届出用紙に「連絡員」の項目が加えられることになります。これによって、より多くのグループにゼネラルサービスの情報をお届けする責任を果たせるようなシステムになりました。

広報委員会ではどんなことが話し合われたのでしょうか？

「常任理事会による中央省庁への働きかけ」という提案があり、従来行ってきた常任理事会の各省庁への働きかけをより一層充実させていくことが報告されています。

病院施設委員会の活動はどんなことが決まったのでしょうか？

「全国矯正施設フォーラム」の開催が採択されました。今後

全国から開催地域の立候補を募る予定となっています。詳しいことは評議員にお尋ねください。

出版委員会の今年の活動は？

大判ビッグブックの印刷発行が採択されています。実際の発行はもうしばらく時間がかかる様子です。

こうした決定を受けて財務委員会では？

財務委員会が打ち出した本年度予算は、4,600万円強の金額となりました。昨年度より若干の削減はしたものの、よりいっそうの献金と出版物の頒布が必要と思われます。

その他で皆さんに是非お伝えしておきたいことは、各地域の評議員選出に対する問題ということが慎重に審議されたという点です。今回の評議会に議案として提案され、今後も継続して審議していくこととして、構成メンバー全員の共通認識となりました。これは日本のAA全体が今後の大きな課題として取り組んでいかなければならない問題でしょう。

今回審議された3日間のすべての情報は、5月半ばを目途として発行予定の報告書に記載されます。予定通りグループの皆さまのお手元に届けるべく、事務局書記スタッフ達が現在ねじり鉢巻で作業に取り組んでくれています。彼らの尽力無くして、この全国評議会自体もその後に発行される報告書も出来上がることはないということを付け加えておきたいと思います。またその他の受付等を支えてくださった事務局ボランティアスタッフの皆さんにも、この場を借りてお礼の言葉を述べさせていただきます。そしてグループの皆さんが日々ゼネラルサービスを支えてくださっていることにも、再度お礼を申し上げます。

評議会事務局長・水谷



新常任理事からのメッセージ

献金箱は霊的な箱

財務担当 全体サービス常任理事 林

この度、B類常任理事として向う4年間日本AAの全体サービスの仕事を行わせて頂くことになりました。皆様との信頼関係こそがこのお仕事を成就させてもらえるものと思っていますので、それに応えられるよう行動していきたいと思っています。

さて担当は財務担当になり、先ずJ S Oを中心とした支出面の切り詰め努力に力を注ぎ、昨年度末からAA日本評議会直前まで討論して、そのボリュームを決定して参りました。そして収入面については、AAの仲間のなかで熱心にJ S Oの会計について心配していただける方々のご意志が、J S Oに個人献金として入金される強い流れになって行くように願って参りました。

しかし収入予算の計上が過去最高を上回る1600万円に設定せざるを得ない事態となってしまいました。このまま昨年と同じやりかたで行きますと、また昨年と同じく年末を迎えて皆様をお願いすることになると思います。しかし今年の場合、献金目標達成は極めて困難な状態です。

そこで全国の方々と力を合わせて献金活動が活発になるように、献金委員会（仮称）の立ち上げを提案したいとの思いに至りました。

核になるメンバーは地域評議員の方々が望ましいと思いますが、緩やかな全国ネットワークにして各地域で献金フォーラムの開催や献金活動の推進、また献金推進の広報活動などを主な仕事とします。

「献金箱は霊的な箱」というキャッチフレーズはもう25年も前に私たちが見聞きした言葉でした。その言葉を再度スローガンにして、この機構は少なくとも私の財務任期中の2年、あるいは4年の全任期中、しいては長期に生き残れる骨格のシステムにできればこれ以上の喜びはありません。

私も皆様とご相談するために出来るだけ出かけていきます。またお知恵をJ S Oにお寄せ下されば大変有り難く存じる次第です。

テーマはがらっと変わりますが、30年の時間を経てきた日本AAが、長年の歴史を持つJ S O、10年の歴史を持つAA日本常任理事会、AA日本評議会で、自らのメンバーによる棚卸を行っていくことを提案したいと思っています。この棚卸の気風がグループから地区、地域へと広がり、日本のAAが新しく生まれ変わっていくきっかけになればうれしく思うのです。

早速所属グループにグループの棚卸を提案したいと思っています。それは全国担当理事という私のも一つの顔の仕事としてやっていきたいとの思いからであります。

B類常任理事としてのごあいさつ

評議会担当常任理事 小林

今年の2月10日から12日までの3日間、第11回目の評議会が開催され、常任理事として活動をさせていただくこととなりました。

自宅にあるAA日本ニューズレターを探したところ、1996年2月20日付の第56号がありました。

そこには、「AA日本常任理事会いよいよスタート」の見出しとともに、当時の常任理事の名前や活動の抱負が生きて

きと掲載されていました。

10年前の私は、まだ酒をやめ始めて1年でした。

96年から、東京・南多摩地区の副議長、議長を担当させていただく中で、サービスについて学ぶ機会が与えられ、私のサービス活動のスタートとなりました。

98年2月、全国評議会で25周年記念集会の中止決定が行われたときには「実行だよ。AAは実行だよ。」と仲間と一緒に、98年の7月、11月の関東甲信越の地域集会で呼びかけ続けた。そして2000年2月、日比谷公会堂、代々木青少年センターでAA日本25周年記念集会が盛大に開催されましたが、これは私にとって得がたい経験となりました。00～01年には地域集会副議長、議長をさせていただき、03～04年の2年間は、評議員として活動させていただき、昨年の選挙で常任理事に選出していただきました。AA日本全国評議会が発足してから、満10年の節目という今年に常任理事を担当させていただくこととなりました。

常任理事としては、初めて評議会を経験させてもらいましたが、常任理事の仕事は今まではもっと軽いものだと考えていました。評議会の1日目より、2日目、そして3日目が終わる頃には、胸に芽生えてくる感情は、不安、不安、不安だらけとなりました。私に四年間の常任理事が務まるかどうか、不安の先取り、緊張が極度に襲ってきています。担当する評議会のこと、議事委員会のこと、特にサービスを担当するメンバーがなかなか育たない中で、評議会には各地域あわせて3名が欠員という状況については、どう対応すべきか等の様々な課題が頭の中を回り続け、判断に迷っています。

無力さをつくづく感じます。

がんばるしかない、やるっきゃないとも思います。

皆様方のご協力、よろしくお願いいたします。

B類常任理事としての役割

出版担当 西日本圏地方常任理事 新村

昨年6月のAA日本常任理事会B類常任理事選出選挙に立候補し、信任して頂き、今年から2年間は出版担当をさせていただく事に成りました新村です。アルコールクです。AA日本ゼネラルサービス常任理事の役割を与えていただいた事を光栄に思っていると共に、皆さまに深く感謝しています。

1989年の第1回AA日本GSMの評議員をさせていただいた時も、3年間（最初の千鳥方式で）文書（現在の出版）担当で、日本AA最初のオリジナル版一個人の物語「回復への道パート1」が発刊された事が思い出されます。7回のGSMの開催と、1996年から始まって10回にわたるAA日本全国評議会を数えて通算18年経った今、翻訳出版は年月が掛かると言われているけれども、書籍の主なものは大半日本語訳出版されたといっても良いでしょう。そしてそれらリーフレット、パンフを含めて出版物は多岐にわたって回復とサービスと一体性の分かち合いと実践の役に立っていることは必至の事実と云えるものと確信します。J S O、出版局はもとより評議員をはじめサービスに関わったすべての方々の献身とハイヤーパワーの配慮の賜物に感謝します。

私がAAにやって来たのはちょうど21年前ですが、「AA成年に達する」も、「サービスマニュアル」も、あれもこれも翻訳されていませんでした。両方とも2年ぐらい経ったころに出版され、当時も、今も日本のAAメンバーにより一層の回復とサービスと一体性の概念を植え付けてくれているものと思います。

今こうして書いてみると、当時のことが頭によみがえって

来ます。アルコール依存のどん底状態に陥ったのは、50歳の時でした。アルコール専門医の主治医に「いったんアルコール依存症になったら、2度と正常には飲めないし、1人で断酒することはまず不可能ですよ。」だからAAのミーティングに参加するようにと5回ほど勧められて、やっとしぶしぶ、おそろおそろ、ミーティング場を訪れるようになりました。そして数回ほどミーティングに参加するようになったとき、帰りの電車の中で、「AAのバイブルとも言えるビッグブックという内容がすばらしい本があるので読んだらいい。」と仲間が話してくれて、関西セントラルオフィス(KCO)を教えてくださいました。その時に、絶望状態にあった私に希望の光をあててくれたのは第2章の「解決はある」でした。それから、ビッグブックを読んで、自分の50年間の歪んだ生き様を少しずつ気付きながら、ミーティングで話し、仲間の話にも真剣に耳を傾けて回復のプログラムで、変えられるものはAAとハイヤーパワーによって少しずつ今も変えられていっています。そして勿論「12&12」も回復と成長の道案内になっています。そして5年後の1990年には、求めたわけでもなく、考えもしなかった関西セントラルオフィスの職員になることを引き受ける羽目になってしまった。一昨年の12月を以って退職するまで14年間伝統8に基づいて地域のサービスセンターの業務に携わる恩恵を受けたことをハイヤーパワーに今は感謝しています。

一昨年、定年退職と同じ状況で、時間的に、身体的に自由になった矢先、昨年B類常任理事選出選挙を知りました。AAにつながって一年のソーバーを過ぎた頃から、生かされて新たに与えられた人生をAAの中で、AAと共に生きて行こうとの思いがずっとあったので、年齢的なことも考えましたが、今度はサービスセンターの専従職員としてではなくサービスに携わる一メンバーとして、思い切ってこの機会に立候補し信任された次第です。

日ごとに与えられているソプラエティへの感謝と、今ここに生かされている喜びが力となって、奉仕を任されたしめとして、常任理事としての与えられた役割を果たすべく、一体性の中で、謙遜と寛容とお互いの信頼と愛をもって、AA共同体と、これからAAにやってくる未来の仲間のために、私に合った靴をはいて、役立ちたいと思っています。

AAの愛とサービスの輪

～九州・沖縄～

私は、酒を飲み始めた当初から、周りの誰よりも多量に飲んでいまして、自他共に認める大酒飲みで通っていました。当然、年数を経過すると、アルコール性肝機能障害を呈し内科病院に幾度も入退院を繰り返しました。その都度、医師から酒を止めるか控える様に通告されるのですが、聞く耳など持たず、退院と同時に飲み続ける有様でした。AAに辿り着くまでの20数年の歳月の中で、前半の10年余は飲んではいけないう時は飲まない事ができていましたが、後半の10数年は、生まれながらの体質によるものか、アルコール症が発症して、所謂、酒から身も心も支配された状態に陥りました。その間の、私の生き様はアルコール依存症者が落伍してゆく人生の典型的雛型でした。最終的に精神病院に入院し、初めてアルコール依存症の実態を教えられますのですが、自分自身、病気について真摯に考える事もなく、否認していました。その入院中に病院スタッフからAA参加を勧められて参加はし

たものの、退院後は、仲間に出会える事の大切さを認識していなかった為、すぐに潰れてしまいました。同じ病院に再入院し、退院後、再度AAに繋がりました。この時は酒を止めなければならないという真剣な気持ちと出来るかなという不安が同居していました。暗中模索の中で、仲間のいう「1年止めたら楽になる」という言葉を信じてミーティングに出席し続けました。最初の1年間は、一所懸命に我慢して酒をやめました。しかし、回復、一体性、サービスの3つのレガシーの意識など微塵もありません。ホームグループのミーティングのみに参加し、地区委員会、地域委員会、他地区のセミナー出席、メッセージ活動等、全然、無縁のものであり他人事でした。1年を過ぎた頃、仲間が言った通り酒を止める事が楽になり、他人事であったAAの活動も仲間に誘われるままに少しずつやる様になりました。そうする事により、完璧にはできなくとも、私はAAの伝統を遵守し、ステップを指針とする生き方を実践する努力をしようという心を決めました。先人の残してくれた、回復、一体性、サービスの三遺産を受け継ぎ、次代へ継承していく責任を意識し始めました。私の責任は、「AAの中で自分の能力の範囲内で、出来る事は惜しまずに何でもやる。」という事だと思っています。

AAの愛とは、飲んできていた時の自己中心的考えを除去し、自分も含めて皆が幸福になる様配慮する思いやりの心ではないかと思うのです。AAの愛の心を持つ者が集う時、そこは明るい笑顔で溢れているであろうし、アル中の悲惨な人生は、次第に世界から消滅するはずですよ。

AAのサービスは、金銭と時間の犠牲を覚悟しなければいけないかもしれないが、過去のどん底状態から脱却させてくれたAAに対して自分の自由のできるお金と時間を全て費やしても惜しくはないのです。AAに於けるサービスとは、AAからもらった謙虚さと、感謝の心を行動に顕すものと理解しています。メンバーのひとり、一人が、背伸びする事なく、AAの崇高な理念に、一体性をもって参集し、共に、行動すれば、未来永劫に、AAの愛とサービスの輪は拡がり続ける事と確信するものです。

(長崎) 信

「AAの愛とサービスの輪」という原稿を依頼されて、普段から全くそういう認識もなしに、AAに関わってきた私は、非常に戸惑い、どうやって書き上げたものかと悩みの日々が続きました。それでも書き出さないことには、終わりは来ないというところで、この原稿を書いています。

私がAAに出会ったのは、初めて入院したアルコール専門の精神病院でした。その病院にはAAの院内グループがあり、院長や婦長さんの勧めで顔を出してみたのですが、良く言われているように神とか祈りとか出てきて、私には縁遠い、非常に場違いなところに来たなという印象でした。それでもステップ1の「生きていくことがどうにもならなくなった」というところには、酒を止めたくても止められず、いろいろと問題を引き起こし、どうにもならなくなって、専門病院に逃げ込んだ形だった私としては、まさに自分の事だということ引き付けられるものがありました。

第一印象はあまり良くなかったAAですが、なんとか立ち直りたいという気持ちで通い続けていました。ところが、通い始めて2ヶ月も経たないうちに、メンバーだった先輩の患者さん達が次々と退院していき、まだ、右も左も解らない私がグループのチェアマンをやる羽目になってしまいました。

一応の引き継ぎはありましたけど、やっとアルコールが抜け出してきた私には荷の思い役割でした。それでも同じ入院

中のメンバーと相談しながら、そして、メッセージかたがた、外部から通って来てくれる宮崎や鹿児島メンバーに聞きながら、ほんの少しづつですが、AAのサービス体系というものが見えてきました。その中で、同じ宮崎のメンバーの、いつもニコニコしていて、優しい導きというものに、これまた引き付けられるものを感じました。当時、宮崎はAAが発足して2年目位の頃でして、地区のメンバーといってもソーバー1～2年の5～6名のメンバーしか居なかったのですが、機会ある度に飲まない姿で現れて、ステップや伝統、サービスの話をしてくれ、私のAAに対する思いを芽生えさせてくれるのに、大いに力になってくれたと感謝しております。

院内グループで、病院の治療プログラム以外の時間は、割と自由に行動出来ましたので、昼間もミーティング場へ行って、AAの書籍などを読んでいました。ふと気付くと、夜のミーティングの時には分からないけど、ミーティング場がとても散らかっている、汚れている事に気付きました。それ以来、毎日ではないけど、書籍の整理をし、床を掃くなどの掃除を始めました。それが私にとって、グループに対する自発的な奉仕の始まりだったような気がします。夜のミーティングで飲むコーヒーの為に夕方、ポットにお湯を用意しておく。そんなことも、最初は教えられた通りにやっていましたけど、役割上の義務としてではなく、「やっておきたい」「そうしてあげたい」そんな気持ちで取り組めるようになりました。

AAとの出会いの最初の段階で、そのような気持ちを持てたことは、本当にラッキーなことだったと思います。これも愛の神が姿を現されるミーティング場にしょっちゅう出入りしていたおかげなのかなと、今になって思います。

無事、退院してからも、ホームグループの僕であれ、地区、地域の役割であれ、負担と思わず、不十分ながらもサービスに携わって来れたことは、AAの温かく見守ってくれる愛の輪と、仲間の愛の輪があったからこそだと感謝しております。そして、ほんの少しづつでも良いから、酒を止められている感謝の気持ちを、サービスという行動でAAに現すことも必要だと思います。

今、初めてAAに出会った、院内グループが存続の危機に瀕しているとのこと。延べ伝えをを怠ってきた責任を非常に感じますが、「助けを求められたら、必ずAAの愛の手があるように」、今一度、足元を振り返ってみたいと思います。私が受けた愛のように。

都城グループ カズ



13番目のステップ??って

「世の中は酒と女が^{かたき}仇なり、どうぞ仇にめぐり会いたい」という川柳を聞いたことがある。それを聞いたときドキッとしたのを覚えている。そしてよくもまあ言い得ているものだと感心したものだ。

自分を振り返ってみれば、「こんなに苦しくて切ない思いをするものはもうこりごりだ、二度と手を出さないぞ」、と幾たびも決心したものである。そして舌の根も乾かないうちにめぐり会いたくなっていた。

AAのミーティングに出ようになり酒は飲まないでいられた。がもう一つの仇とはめぐり会った。めぐり会ったというより求めていたというのが正解だ。

しかし、セックスを最優先し相手の気持ちを思いやる事が出来なかった私は「もうエッチするのは止めました」という書き物一枚で去られてしまった。

ところで「愛」についてだが、私は女性の上に乗っかり「愛してる」と連呼することだどずいぶん長く思っていた。つまりセックスそのものが「愛」だと思っていたのである。このような私だからか、あるイベントの夜のAAミーティングで「セックス」というテーマでやるから話してくれ、と頼まれたことがある。「何で俺なんだよ」と避けたかったけど、「セックスで悩んでいる仲間がいるから頼む」といわれたので引き受け、自分の話をさせてもらった。悩んでいる仲間がその後すっきりしたかどうかはわからない。しかし私はミーティングの効果をもたらしたように思う。

私の周りで異性との関係で悲惨になっていったメンバーを何人かみてきた。(私も危なかったわけだが)。私の周りで何人かだから、全国的にはどうなのだろう?

「13番目のステップ」とよく聞く。回復がままならぬ時に異性と関係を持つことを戒める言葉なのだろうが好きな言葉ではない。しかし、私たちより先にAAにつながり、仲間の回復の手助けを続けてきた仲間の提案は経験上効果のあるものであり、私の好き嫌いは別として大切なものだと思う。

「アルコール」と「セックス」とは密接な関係にある気がする。私の知る限りにおいて、AAのミーティングで「セックス」をテーマにしたものに余りめぐり会ったことがない。それらのことは暗くジメジメとした土蔵に押し込められているような気がする。AAミーティング特有の持ち前の明るさで、陽の目を見るのが必要な気がするのは私だけの思いなのだろうか。

常任理事会広報委員会

お待たせいたしました！いよいよ頒布開始です。

「ドクターボブと素敵な仲間たち」

AAの原風景が、ここにある！

ビルから一本の電話を受けたドクターボブは、その日、酔いつぶれ、ぶっ倒れていた。だが妻・アンの直感と強い意志によりビルとボブの出会いが実現する。その晩、深夜におよぶ二人の対話のなかからAAの第一歩が始まった…。

そして最終章、ビル・Wとの最後の会話…。ゼネラルサービスの運営をめぐる激しい対立と混乱が生じていた。相談に訪れたビルが帰ろうとしたとき、ボブは言った「忘れるなよ、ビル。これを台無しにするなよ。シンプルにままで行こう！」ビルはふり返ることができず、何も言い返せなかった…。

頒布価格¥2940(税込み))

お求めは各地域セントラルオフィス、J S Oまで

第18回WSM報告書(メンバーのみの内部資料です)が出来上がりました！お求めの方はJ S Oまで

今年8月に開催される第2回モンゴルナショナルコンベンション参加ツアーのメンバーを募集しています。ご家族、友人もお誘いあわせのうえ、どうぞふるってご参加ください。詳細はJ S Oまで。

AA日本ニューズレターNo. 116

編集・発行：NPO法人 AA日本ゼネラルサービス(J S O) 〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：<http://www.aajapan.org>